

〔資料紹介〕

千葉市加曾利貝塚西平坦部採集の遺物について

—房総半島西部における縄文時代晚期の研究にむけて—

山 中 英 世

はじめに

ここに紹介する資料は昭和48年の加曾利貝塚東積料面発掘調査に参加した際に、南貝塚の西側平坦部の畠地より採集した土器および骨角器である。土器は千葉市内でも数少ない縄文時代晚期のものを含んでおり、ここで千葉市周辺の縄文時代晚期の資料集成を計ると共に今後の研究の基礎資料としたい。

1. 採集遺物の概要（第1図）

加曾利貝塚は千葉市のはば中央に位置し、都川に開削する古山支谷の西側、標高20~34mの舌状台地上に南北2つの貝塚が展開する。過去数度に亘る調査により縄文時代前期から集落が営まれていることが確認されている。遺物を探集した西平坦部は、従来の調査の中心をなした貝塚の中心部および東側とは異なり、北貝塚の西側に3ヶ所の地点貝塚が確認されているのみで詳細は不明であった。

第1図1は土器の底部と思われるもので、口径7.2cm、現存高3.5cmを測る。底面には円弧状のLRの磨消縄文を施しており縁辺部の1帯に刺突を加えている。体部にも同様な類似の磨消縄文を施しており、内面には底部と体部の接合部を明確に残している。底面に文様を行っている点や形状から異形台付土器の一部とも考えられる。加曾利BII式土器であり南貝塚西平坦部採集。第1図2は肩部が張る器形を有する縄文時代晚期の土器であり、口径14cmを測る。2本の弦線で区切った頸部文様帶内にはハラ先状工具による短蛇線が3段に亘り整然と施され、棒状文を連結した内にα状の沈線を施し、その下段には更に頸部文様帶と同じ文様を施している。器形および文様描出方法より埼玉県地方の安行IIIb式土器に類似が求められるが棒状文が連結する例は極めて少ない（註1）。採集した地点は、南貝塚外縁部に隣接して当時存在した印東洋プレハブ工場用地内の重機掘削面で、表土層下の黒褐色土より出土したもので他に遺物の出土はない。第1図3は頂部に一孔を有する骨針の完形品で現存長9cm、幅0.6cmを計る。南貝塚西平坦部採集。以上が採集遺物の概要であるが他に石器6点を採集している。近年西平坦部の開発は著しく、それに伴って数度に亘る緊急調査が行なわれているものの遺構の主体をなすのは縄文時代中期の加曾利B式期で、晚期の土器の検出例はなく今回発見された包含層は極めて極端的なものと思われる（註2）。加曾利貝塚からは安行IIIa式～前浦式の縄文時代晚期の土器が出土しており、



第1図 採集遺物と採集地点および加曾利南貝塚出土の土器

南貝塚内側東地点より安行III式期の住居址が1軒確認されている他、南貝塚中央部および北側外縁部、東側の台地縁辺部の4地点から晚期の住居層が発見されている。今回の遺物の発見により小規模なものとはいえ縄文時代窓枠の包含層が貝塚外縁部で確認されたのは重要である。

2. 千葉市周辺における縄文時代晩期の遺跡

千葉市内の縄文時代晩期の遺跡は僅かに29遺跡が確認されているのみで、公表されている資料は更に少ない。以下流域別に遺跡のあり方をみていく（第2図・第1表）。

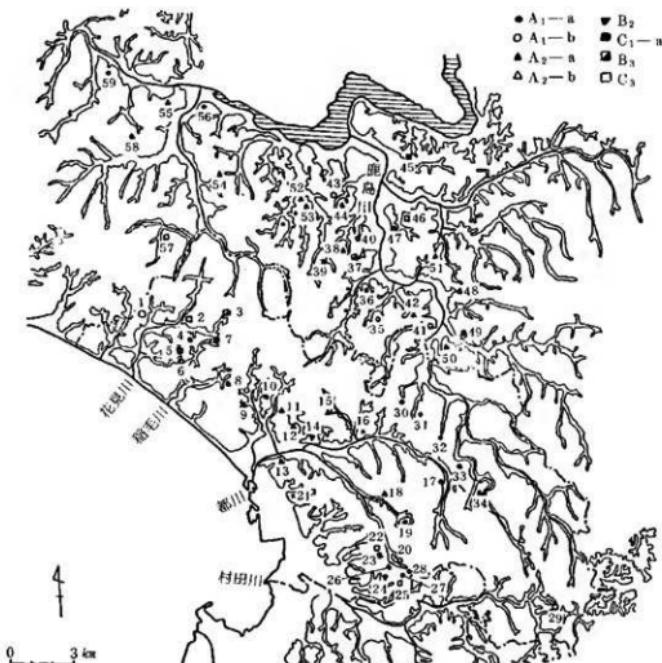
花見川・猪毛川流域—千葉市の北側を占める地域で、花見川流域では西門原遺跡・新堀遺跡・了和清水遺跡・噴煙貝塚・蓑輪遺跡が、猪毛川流域では鳥喰台遺跡・房塙遺跡・御生貝塚の各遺跡が存在する。噴煙貝塚・御生貝塚はいずれも後期からの大貝塚で、過去数度の調査が行なわれているが詳細な報告はなされておらず、役割は握られない。喷煙貝塚では明治31年に明治大学によって調査されたM地点から、大洞C1式土器を伴う總山II式・III式土器を主体とする純貝層が発見されており、御生貝塚でも安行II式・IIIa式土器を土体とする貝層上に安行IIIb式土器を伴う複土貝層が発見されている（註3）。了和清水遺跡は県内でも数少ない晩期終末の遺跡で、浮線樹状文土器を土体とする遺物集中地点が2地点発見されており、これに伴う土偶・独鉛石等も出土しているが石器の組成は貧弱で新しい要素を含んだものはみられない（註4）。房塙遺跡も浮線樹状文土器の集中地点が発見されており、御代田式土器も出土している（註5）。鳥喰台遺跡は早期後半を中心とする遺跡であるが、一段の菱形浮線文を有する小形浅鉢形土器が単独出土している（註4）。この文様構成は水式土器の中心をなすもので、群馬県千絆谷戸遺跡・新潟県藤原遺跡・長畠遺跡等から出土しており、鳥喰台遺跡出土例はこれらを模倣したものと思われる文様抽出は惟劣である。了和清水遺跡・房塙遺跡・鳥喰台遺跡は近接したほぼ同じ時期の遺跡でありながら土体とする浮線樹状文土器の文様構成は異なり、房塙遺跡から了和清水遺跡への時間的流れが読みとれる。なお新堀遺跡は古墳時代を中心とする集落址であるが遺構外から浮線樹状文土器が、蓑輪遺跡からは古墳時代の住居址複数内から安行IIIc式土器および千絆式土器に伴う織糸文を有する粗製土器が出土している。

都川流域—千葉市の中央部を占める地域で、北から南へ流れる鹿川・南から北へ流れる仁戸名川等の支流を含めて縄文時代中期から後期の大貝塚が数多く形成された地域である。鹿川流域の五味ノ木遺跡・藏白貝塚・草刈場貝塚・古門貝塚・都川流域では矢作貝塚・和山前遺跡・加曾利貝塚・川井貝塚・仁戸名川流域では築地台貝塚・長谷部貝塚・清水作遺跡の各遺跡があげられる。このうち築地台貝塚からは安行IIIa式期の住居址が、古門貝塚・加曾利貝塚からは安行IIIb式期の方形住居址が発見されている。古門貝塚は土取り工事の際に発見されたもので詳細は不明であるが、築地台貝塚では数少ない晩期の住居址が貝塚外縁部から検出されている。8.2m×7.6mの円形を呈する拡張住居址で、住居址内からは石棒・石剣・独鉛石等が出土しており、晩期初頭

第1表 千葉市周辺の縄文時代既期の遺跡地名表

番	遺跡名	所 在 地	時 期	遺 構	備 考	類 型	文 獣
1	西 門 城	千葉市長作町西門原	中期・後期(安行田b)			A ₁ - b	1
2	新 堀	千葉市横須町	早期・前期・中期・後期・後期(千堀)			C ₃	2
3	子 和 清 水	千葉市三角町	早期・前期・中期・後期・後期(千堀・千堀)		土偶・鉛鉢石	B ₃	1
4	犠 鳥	千葉市横須町草原	後期・後期(安行田a・田b・大洞c ₁)		上板(安行田a)	A ₁ - a	1-3-4-5-6-7-8
5	森 稲	千葉市畠町	後期・後期(安行田c・千堀)			B ₃	9
6	鳥 嘉 古	千葉市吉野木町鳥喰台	早期・前期・小洞・後期・後期(千堀)			C ₃	1
7	房 地	千葉市宮野木町房池	前期・中期・後期・後期(高品・千堀)			B ₃	1
8	廬 生	千葉市園生町長若山	後期・後期(安行田a・田b・田c・大洞c ₁)			A ₂ - a	1-5-7-8-10-11
9	九 味 ノ 木	千葉市萩台	前期・中期・後期・後期(安行田b)			A ₁ - b	12
10	殿 古	千葉市殿台	中期・後期・後期(安行田a・田b)			A ₁ - a	8-13
11	佐 刈 場	千葉市貞敏町木作	中期・後期・晚期(安行田a・田b・田c)			A ₂ - a	1-6-8
12	古 門	千葉市貞敏町古門	中期・後期・晚期(安行田a・田b・田c)・住居址(安行田b)			A ₂ - a	1-6-8
13	矢 作	千葉市矢作町員波	(即)・前期・中期・後期・後期(安行田a・田b・田c・前波)			A ₂ - a	1-8-14-15
14	和 出 前	千葉市加曾利町	前期・中期・後期・後期(安行田d・前波)			A ₁ - a	16
15	加 齊 利	千葉市桜木町京霧台	早期・前期・中期・後期・後期(安行田a・田b・田c・前波・大洞c ₁)			A ₁ - a	1-6-7-8-11-17
16	新 山 山	千葉市坂月町山王	(弥生・須和田)				7
17	川 井	千葉市川井町川井	後期・後期(安行田a)	上槽		A ₁ - a	8-18
18	築 地 台	千葉市平山町築地台	中期・後期・晚期(安行田a・田b・田c・前波)	住居址(安行田a)	須和田・石棒・石器	A ₂ - a	8-19
19	長 谷 郡	千葉市平山町牛理台	中期・後期・後期				7-8
20	中 舟 台	千葉市牛船町牛船台	(弥生・須和田)				7
21	消 水 作	千葉市辺田町	後期・後期(安行田a)			A ₂ - a	21
22	有 吉	千葉市有吉町上赤塚	早期・前期・後期・後期(千堀)			C ₃	22
23	小 金 泉	千葉市小金沢町堂前	前期・後期・後期(安行田a)			A ₁ - a	1-7-8
24	御 塚 谷	千葉市小金沢町	早期・前期・中期・後期・後期(安行田c)	住居址(安行田c)		B ₂	20
25	大 唐 野 北	千葉市大金沢町	早期・前期・中期・後期・後期・後期(千堀・荒瀬)			C ₃	23
26	六 通	千葉市大金沢町六通	後期・後期(安行田a)			A ₁ - a	1-6-7-8
27	六 通 神 社 南	千葉市大金沢町	中期・後期・後期(安行田a)			A ₁ - a	20
28	金 山	千葉市大金沢町金山	早期・後期(安行田a)			A ₁ - a	7
29	文 六 第 1	千葉市小金沢町	後期・後期・中期・後期(千堀)				

30	荒 立	千葉市千城台四丁目	後期・前期(安行IIIa)		A ₁ - a	8
31	宇 津 志 野 原	千葉市人井戸町宇津志野原	早期・晚期		C ₃	1
32	か る む み	千葉市御廟町かるみみ	中期・晚期(千總)			
33	山 田	千葉市野呂町山田	中期・後期・晚期(安行IIIa・IIIb)	土版(安行IIIa)	A ₁ - a	1-7-8-24-25
34	八 反 目 台	千葉市野呂町八反目台	早期・中期・後期・晚期(安行IIIa・IIIb ・IIIc・前神)		A ₂ - a	1-7-8-26
35	六 反 部	西街道市・台字六反歩	晚期(安行IIIb)		A ₁ - b	27
36	相 ノ 谷	四街道市山野字相ノ谷	中期・後期・晚期(安行IIIa・IIIb)		A ₁ - a	27
37	御 山	四街道市井笠御山	中期・晚期(安行IIIa・千總・前神)	生活遺・土壤遺	B ₃	27-28-29
38	千 代 田	西街道市千代田	初期・中期・後期・晚期(安行IIIa・IIIb ・IIIc・前神)		A ₂ - a	30
39	池 花 湖	西街道市内原町	前期・後期・晚期(千總・荒海)須和田	石刻・長塚	C ₃	29
40	後 口	四街道市範曉字後口	中期・前期・中期・後期・晚期(大同A)		C ₃	27
41	坂 下 金 仏 坂	佐倉市坂下金仏坂	中期・晚期(安行IIIb・前神)		A ₁ - b	31
42	坂 戸 草 刈 坂	佐倉市坂戸草刈坂	後期・晚期(安行IIIa・IIIb・IIIc・前神)	土版(安行IIIc)	A ₂ - a	31-32-33
43	吉 見 稲 荷	佐倉市吉見稲荷	早期・中期・後期・晚期(安行IIIb)		A ₁ - b	31
44	吉 見 台	佐倉市吉見台	後期・晚期(安行IIIa・IIIb・IIIc・前神)	土版(安行IIIa・前神)	A ₂ - a	31-34-35
45	岩 名 天 神 前	佐倉市岩名天神前	後期・晚期(安行IIIa・IIIb・IIIc・前神)		A ₃ - a	31-36
46	大 崎 台	佐倉市六崎大崎台	晚期(千總・荒海)	住居址(荒海)	C ₃	37
47	太 田 清	佐倉市太田清	早期・中期・後期・晚期(安行IIIa・IIIb ・大同B)		A ₁ - a	38
48	岩 富 王 祐 東	佐倉市岩富王祐東	前期・中期・後期・晚期(安行IIIa・IIIb ・IIIc・前神)		A ₂ - a	31
49	岩 富 藤 谷 津	佐倉市岩富藤谷津	早期・中期・後期・晚期(安行IIIa・ IIIb)		A ₁ - a	38
50	飯 塚 荒 地	佐倉市荒地台飯塚	中期・後期・晚期(安行IIIa・IIIb・前神)		A ₂ - a	31
51	木 野 木 古 伊	佐倉市木野木古伊	中期・後期・晚期(安行IIIa・IIIb・IIIc)		A ₂ - a	31
52	神 奈 馬	佐倉市下志津神奈馬	中期・後期・晚期(安行IIIa・IIIb・IIIc)		A ₂ - a	31-32
53	飯 合 作	佐倉市下志津飯合作	中期・前期・中期・後期・晚期(安行IIIa・ IIIb)		A ₁ - a	31-32
54	井 野 長 第	佐倉古井野長第	後期・晚期(安行IIIa・IIIb・IIIc)		A ₂ - a	31-32-39
55	佐 山	八千代市佐山	中期・後期・晚期(安行IIIa・IIIb・IIIc ・前神)		A ₂ - a	40
56	神 野	八千代市神野荒地	中期・後期・晚期(安行IIIa・前神)		A ₁ - a	8
57	高 津 新 山	八千代市高津新山	前期・中期・後期・晚期(荒海)		C ₃	
58	金 輪 山	船橋市豊富町保神斯田桑輪台	後期・晚期(安行IIIa・IIIb・IIIc)		A ₂ - a	8-41
59	池 谷 津	船橋市小室	後期・晚期(安行IIIa・IIIb)		A ₁ - a	8
60	下 出 台	千葉市大宮下田台	後期・晚期(千總・荒海)		C ₃	



第2図 千葉市周辺の縄文時代晩期の遺跡

経路		1	2	3
経路	経路	安門館 a・田 b	安門館 c・田 d・前橋	千葉・荒海
A 田 a	健城	健城	健城	
	田井	田井	田井、安門・矢作、知荷羽、事持	
	小金沢、六道、六通御社前・金面			
	高立・山田			
B 田 b	八反田	八反田		
	佐久谷・末田屋・蓬古跡		草可駆引・古見原・上ノ越島・葛地立	大野原・千代田
C 田 c	西門町			
	五種・茶・落作			
C 田 d	八度館・鶴原山			
D 前橋	安門館 c		和田里	千葉水・野柳・西郷
	田 d		前橋里	
				西郷
E 荒海	(花見川・堀毛川流域)			新都・西郷台
	(南川流域)			行び・太郷野北・义六原
	(南川・堀毛川)			からひみ
	(南川下流域)			堀口・大船台

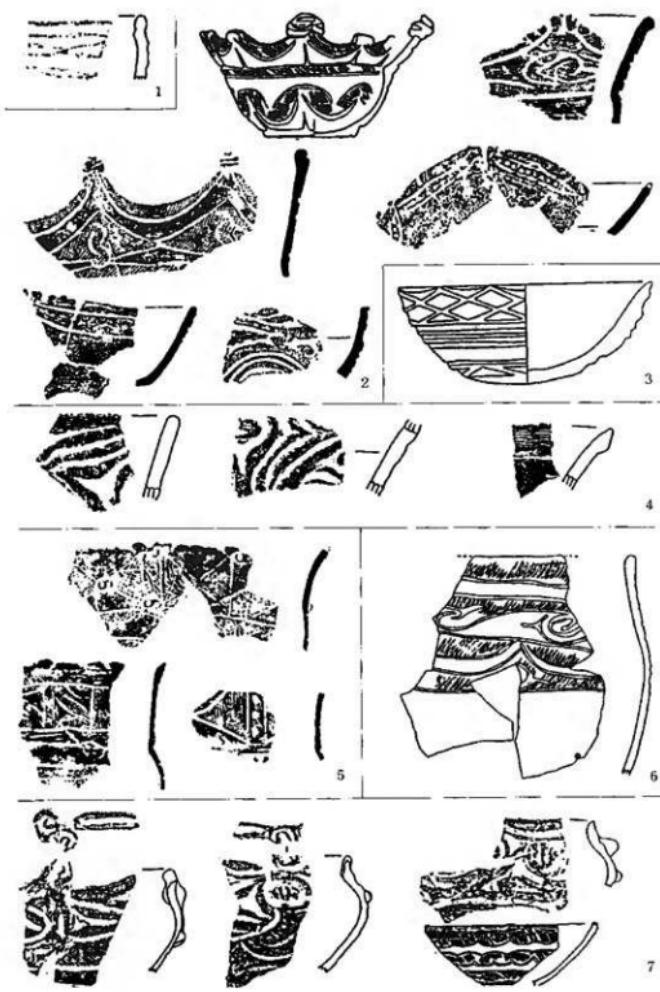
第2表 千葉市周辺の縄文時代晩期の遺跡・継続表

の石器組成を知る上でも重要である。鞍台貝塚は後期から安行III b式期に形成されたもので後期後半の貝層はハマグリ・オキアサリ・キサゴを主体としてヤマトシジミを混じえており、採捕地が汽水域に変化していくことを良く表わしている。この他に加曾利貝塚・矢作貝塚からは前浦式期までの各遺物が出土しており、また良好な安行III d式土器・前浦式土器を出土している和田前遺跡は特筆される。

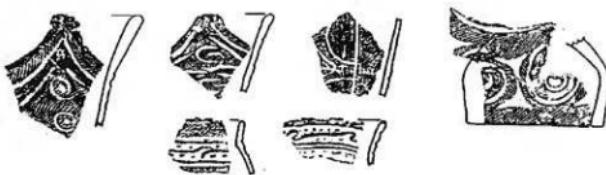
村田川流域一千葉市南辺の地域で古吉貝塚・小金沢遺跡・御塙台遺跡・大膳野北遺跡・六通貝塚・六通神社南遺跡・六通辻田遺跡の各遺跡があげられる。近年の千葉東南部ニュータウン建設工事に伴う調査により幾つかの遺跡が調査されているがいずれも縦理中で詳細は不明である。御塙台遺跡からは安行III c式期の良町を包含層と住居址が発見されている他、有吉貝塚・大膳野北遺跡からは千綱式土器に伴う撚糸文の粗製土器が出土している。また最上流に位置する文六第1遺跡からも千綱式土器が撚糸文の粗製土器と共に出土している（註5）。

鹿島川流域 千葉市の東側を占める地域で荒立貝塚・宇津志野原遺跡・かるむみ遺跡・野呂山貝塚・八反目台貝塚の各遺跡が存在する。荒立貝塚・野呂山田貝塚・八反目台貝塚はいずれも後期の地点貝塚を伴う遺跡で、野呂山田貝塚では遺跡の中央部に、八反目台貝塚では北側に晚期前半の土器が集中する地点がみられるほか、野呂山田貝塚からは安行III d式期の土版が、八反目台貝塚からは千綱式土器に伴うと思われる粗製土器が出土しており、いずれも晩期中葉および後半まで遺跡が継続している可能性がある。かるむみ遺跡からは折り返し口縁を有する撚糸文の粗製土器が出土している（註6）。これを下流の四街道市・佐倉市に目を向けると坂戸草刈掘込遺跡・千代田遺跡・吉見台遺跡をはじめとして約20遺跡が発見されており、晚期の遺跡が集中し発掘調査も數多く行われている地域として今後注目すべき地域である。御山遺跡からは千綱式期から荒海式期の生活址が住居址を含んで4単位確認されているほか、晩期のピット群が3群検出され十畳墓と思われる1基からは滑石製臼玉約320点が一括出土している。同遺跡からは荒海式土器に伴って櫛目式土器に比定される条痕文土器も出土しており、資料の公表が待たれる（註7）。御山遺跡の近隣には晩期中葉までの遺物を多量に出土した千代田遺跡や、近年の調査で須和田式土器の包含層が発見された池花南遺跡、安行III b式期の直徑1.8mの大型住居址をはじめとして前浦式期までの住居址が検出されている吉見台遺跡が存在する。なおこれらの遺跡を載せる台地の対岸のには荒海式期の住居址を検出した大崎台遺跡が存在する。

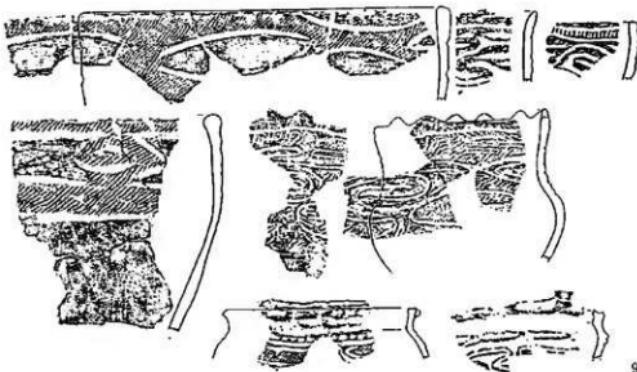
以上が千葉市周辺における縄文時代晚期の遺跡の概観であるが、この他に市原市西広貝塚・福井遺跡・八千代市高津新山遺跡等から晩期終末期の遺物が発見されている。西広貝塚からは前浦式期までの貝層が検出されており、高津新山遺跡では埋没谷付近より約5mの範囲で貝殻条痕文を有する粗製土器が出土し、それと共に粘土の散布が認められている（註8）。



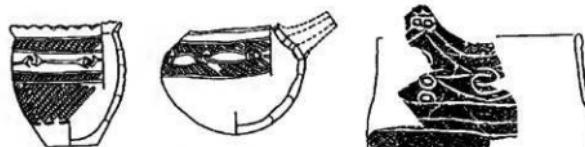
第3図 千葉市周辺の縄文時代晩期の土器
 1. 新堀遺跡 2. 横横目塚 3. 鳥嶋古遺跡 4. 貴船遺跡
 5. 園生貝塚 6. 五味ノ木遺跡 7. 岐台貝塚



8



9



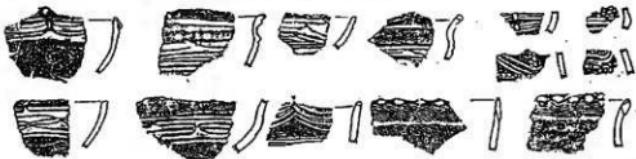
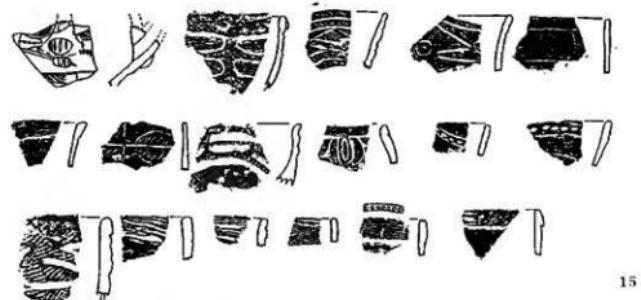
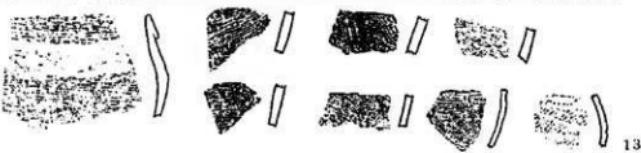
10



11

第4図 千葉市周辺の縄文時代晩期の土器(2)

8. 矢作貝塚 9. 和田前遺跡 10. 薬地台貝塚 11. 清水作遺跡



第5図 千葉市周辺の縄文時代晩期の土器(3)

- 12. 有吉遺跡
- 13. 人鬥野北遺跡
- 14. 野呂山田貝塚
- 15. 八反目台貝塚
- 16. 大崎台遺跡

3. 千葉市周辺における縄文時代晩期の遺跡の動向

これまで千葉市周辺の晩期の遺跡の概略を述べてきたが、花見川・福毛川流域・村田川下流域・鹿島川下流域に遺跡集中地区が認められる。これを遺跡の立地・難易性を中心に観てみたい。なお遺跡の継続性については第2表のように9つの類型化が考えられる。花見川流域は晩期の各時期を網羅しており、千葉市周辺の特色を良く表わしている。後期の大貝塚に付随して後期前半の包含層が発見されるA₁-aタイプの横浜貝塚およびA₂-aタイプの園生貝塚から晩期前半の遺物を含まざる晩期中葉から後半の包含層が発見されるB₃タイプの房地遺跡・子和清水遺跡への交代がスムーズにみられる。房地遺跡・子和清水遺跡は共に支谷の最奥部の舌状に張り出した台地上に立地するという共通性を有しており、房地遺跡から下和清水遺跡へと時間的流れがみられることは前記した。なお子和清水遺跡の削溝式土器は断片的出土状態であり、晩期の居住時間は千葉式期の後半C₃タイプとみることができる。都田川流域はB₂タイプの和田前遺跡を除く他は後期の貝塚に付随して後期の包含層・住居址が形成されたものである。和田前遺跡は遺跡の交代が晩期中葉から始まっていることを表わす例である。村田川下流域ではB₂タイプの御塚台・C₃タイプの有吉日塚・大顕野北遺跡を除くといずれも後期の大貝塚から継続して営まれて安行田a式期に集落を終了する。この中にあってB₂タイプの御塚台遺跡から安行田c式期の住居址が検出されている例は注目される。鹿島川流域では、地点貝塚を有する後期の遺跡に付隨して包含層が形成されるA₁-aタイプ・A₂-aタイプで占められる中、上流域に対して下流域はA₁-aタイプ・A₂-aタイプからB₃タイプの御山遺跡とC₃タイプの荒海式期の住居址が検出された大崎古道跡への交代がみられる他、後期から晩期終末期まで営まれたA₃-aタイプの天神前遺跡・千代田遺跡がみられる。以上のように千葉市周辺においては後期終末に極立ってみられる遺跡の激減という傾向が晩期前半・中葉においてもみられるほか、晩期中葉から新たな遺跡が登場していくことになる(註9)。それらは各地で指摘されているような低地下水の傾向はまだ示しておらず、水田比高1.0~2.0mの台地上という従来の遺跡觀をそのまま継続しており、同一遺跡においては前期から後期にかけての住居址等の遺構が発見されている例が多い。これは低地まで調査の手が伸びていないことにも起因していると思われるが、人崎古道跡・御山遺跡の住居址の検出や子和清水遺跡におけるかず状遺構の検出等をみても、台地上を居住空間として選んでいることが知られ、むしろ大崎古道跡のように支谷開口部に立地する遺跡と子和清水遺跡・房地遺跡のように支谷最奥部に立地する2者に明確に分かれる点に問題が含まれていると思われる(註10)。

次に遺物について簡単に触れておきたい。晩期前半の石器組成を表わす例としては築地台第3号住居址および加曾利南貝塚第11区があげられ、終末期では現在整理中の子和清水遺跡をあげることができるが、従来より指摘されている安行田c式期における石器の大型化・多様化を示す遺跡は現在なく、子和清水遺跡においても従来の石器組成を踏襲し新しい要素の石器は発見さ

れていない。東海・中部・北関東地方においては晩期終末から弥生時代初頭にかけて打製石斧の多量化や石器組成の変化が指摘されているが（註11），千葉市内ではこのような現象はまだみられない。

近年の縄文時代後期から弥生時代初頭にかけての研究の活性化は目を離すものがあり、千葉県下でも前記した縄文時代終末期の遺跡の発掘調査に加えて成田市舞鶴北遺跡群・下総町龍正原（大原野）貝塚等の当該期の遺跡の調査が行なわれ、県内資料による千歳式・荒海式土器の分析もなされているが（註12），発掘調査された遺跡の多くが現在整理中で資料が公表されておらず、「関東地方において研究が進展したのは主として西関東であって、東関東、特に房総半島を中心とする関東東南部が依然として空白であるという著しい地域的偏差が存在する」（註13）との指摘もなされている。

おわりに

加曾利貝塚の周辺は急速に都市化が進んでおり表面採集も困難に近くなっている。これに伴って発掘調査例も増し北貝塚北側および南貝塚西側・南側にも縄文時代中期の聚落が展開していることが確かめられている。このような状況下で南貝塚西側にも小規模と思われるも晩期包含層の存在を示唆する今回の探集遺物は重要である。なお今後の資料は子和清水遺跡の整理用に用意していたものを短期間に纏めたもので充分な分析を加えずにいるが、これは子和清水遺跡の整理・報告を待つて行ないたい。

今回の発表に際しては青木幸一・青沼道文・朝比奈竹男・飯島義雄・久保謙美朗・湖口厚一・庄司亮・寺内博之・寺門義範・芳賀英一・平林彰・山本勇・渡辺昌宏の各氏および印旛郷文化財センター・尖石考古博物館・日本考古学研究所の諸機関に資料の実見・提供等で便宜を計って頂いた。また豊田誠二氏・故高山定吉の両氏には共に表面採集を行ない資料の提供を頂いた。記して感謝申し上げる次第である。

（財）千葉市文化財調査協会

<脚註>

1. 沈線の施文方法を観察すると越山田式土器にみられる枠状文を連結した後に安行田b式土器の入組文からの流れによるS状の沈線を施している。器形および文様にみられる頸部と肩部の三段の短沈線より埼玉県黒谷田端前遺跡包含層出土深鉢Cの流れをくむものと思われる。
2. (財)千葉県文化財センターによる旧舞東洋プレハブ工場用地内の発掘調査により阿玉台式期の住居址が1軒発見されたほか、曾谷式期の埋藏が1例検出されている。また(財)千葉市文化財調査協会による確認調査でも中期の住居址が確認されているほか、今回晩期の土器を採集したB地点付近ではガス管埋設工事に伴って加曾利E式期の住居址2軒が調査されている。
3. 第2図3の完形土器を除く他の土器片がM地点第2層の純貝層より出土した遺物である。3

- 層以下の貝層中では安行II式土器と安行IIIa式土器が混在して発見されている（文献5）。
4. (財)千葉市文化財調査協会により昭和60年発掘調査。
 5. (財)千葉市文化財調査協会により昭和60年発掘調査。浮縫網状文土器が集中する地点と御代田式土器の出土地点は異なっている。湖口淳一・石川日出志氏教示。資料実見。
 6. 烏込東遺跡調査団により昭和47年発掘調査。山本勇氏の御厚意により未発表資料を掲載させて頂いた。千葉市史では「烏込東遺跡」と記載されている。
 7. 千葉市土気地区遺跡調査会および(財)千葉市文化財調査協会により昭和15年以降継続調査。寺門義範氏教示。
 8. 青沢道文氏教示。資料実見。後日発表の機会を持ちたい。
 9. (文献27)では安行IIIc式期の包含層と記載されているが、(文献29)では千綱式上器・荒海式土器の出土が報じられている。なお土器墓の検出を報じているのは(文献28)で繩文後期と記載されており細かい時間は明示していない。
 10. 朝比奈竹男・久保脇英朗氏の教示による。
 11. 大宮台地においても晩期の遺跡が晩期中葉に断絶し、晩期後半の遺跡が新たに別の地点に占地され、それも千綱式新段階以降で一時的な営みに終わることが指摘されている。
- 設楽博己「関東地方の初期弥生土器」『東日本における黎明期の弥生土器』第4回三県シンポジウム 1983群馬県考古学講話会
12. 埼玉県下の晩期終末期の遺跡でも水田との比高差が大きく湧水を有する谷頭部に立地し低地への進出は把えられない。このような立地の遺跡の存在が指摘できるのは波及湖跡の第2段階である四戸坂遺跡の段階であるという。
 13. 吉川国男「西園東における弥生文化の波及について」『埼玉県史研究』第9号 1982
 14. 石川日出志「関東における弥生時代のはじまり」『<条痕文系上器>文化をめぐる諸問題—概論から弥生—発表要旨・資料篇』 1985 愛知県考古学講話会
 15. 青木幸一「荒海式土器の再検討(上)・(下)」『史館』第14号・第16号 1983 1984
 16. 鈴木正博「「荒海式」生成論序説」『古代探査Ⅱ』 1985
 17. 鈴木正博「弥生式への長い途」『古代』第80号 1985
 18. (文献29)

<地名表引用文献>

1. 千葉市教育委員会「千葉市埋蔵文化財分布地図<改訂版>」 1984
2. 寺島博「新創遺跡発掘調査報告」 1985 千葉市遺跡調査会
3. 向坂剛二「雨の横橋貝塚」『ミクロリス』第14号 1956 明治大学考古学会
4. 卢沢充則「千葉市横橋貝塚」『日本考古学年報199』 1964 日本考古学協会

5. 早川哲明 「所謂安式土器について—土器型式の再編成に関する考察—」『台地研究』第16号 1965
6. 千葉市史編纂委員会 「千葉市史 原始・古代・中世編」 1974
7. 千葉市史編纂委員会 「千葉市史 史料編I 原始・古代・中世」 1976
8. 千葉県教育委員会 「千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書」 1983
9. 加藤正信 「千葉市菱輪遺跡」 1985 千葉県文化財センター
10. 神尾明生 「千葉県千葉市園生貝塚」『日本考古学年報10』 1963 日本考古学協会
神尾明生 「千葉県千葉市園生貝塚」『日本考古学年報12』 1964 日本考古学協会
11. 鈴木公雄・林謙作編 「縄文土器大成4 晩期」
12. 池田大助 「五味ノ本遺跡」『千葉都市モノレール関係埋蔵文化財報告書』 1986 千葉県文化財センター
13. 何部芳雄 「千葉市殿台貝塚出土の遺物について」『貝塚博物館紀要』第8号 1982
加曾利貝塚博物館
14. 武田宗久 「下総国矢作貝塚発掘報告」『考古学』第9巻8号 1938 東京考古学会
15. 清藤一順 「千葉市矢作貝塚」 1981 千葉県文化財センター
16. 田川 良 「千葉市和田前遺跡出土の晩期縄文式土器」『奈和』特別号 1984
17. 渡口 宏編 「加曾利貝塚」 1968 加曾利貝塚博物館
渡口 宏編 「加曾利貝塚IV」 1971 加曾利貝塚博物館
18. 千葉県教育府文化課 「千葉県埋蔵文化財調査抄報一昭和54年度ー」 1981
19. 折原 駿他 「千葉市築地台貝塚・平山古墳」 1978 千葉県文化財センター
20. 千葉県教育府文化課 「千葉県埋蔵文化財調査抄報一昭和58年度ー」 1985
21. 杉山晋作他 「千葉市奈木台・藤沢・清水作遺跡」 1979 千葉県文化財センター
22. 種田齐吾 「千葉東南部ニ。タクン5—有吉遺跡(第2次)ー」 1978 千葉県文化財センター
23. 清水一順他 「千葉東南部ニュータウン16一大勝野北遺跡ー」 1985 千葉県文化財センター
24. 米田耕之助 「千葉県野呂坂新田出土の土偶・土版」『立正考古』第26号 1968
25. 田中英世 「千葉市野呂山田貝塚出土の舟形土器—鹿島川流域の縄文時代遺跡(2)—」『貝塚博物館紀要』第12号 1985 加曾利貝塚博物館
26. 田中英世 「鹿島川流域の縄文時代遺跡—千葉市八反目台貝塚」『貝塚博物館紀要』第11号 1984 加曾利貝塚博物館
27. 四街道市教育委員会 「千葉県四街道市埋蔵文化財地図」 1982
28. 千葉県教育府文化課 「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報一昭和59年度ー」 1984

29. 渡辺修一 「関東地方における弥生時代中期前半の地城相」『研究紀要』10 1986
- 千葉県文化財センター
30. 宮入和博他 「千代田遺跡」 1972 四街道町千代田遺跡調査団
31. 佐倉市教育委員会 「千葉県佐倉市埋蔵文化財分布地図」 1984
32. 植沼修平 「佐倉市に於ける縄文時代後・晩期の遺物」『奈和』第14号 1975
33. 高橋建一 「千葉県佐倉市坂戸草刈堀跡出土の遺物」『奈和』第22号 1984
34. 近森正・山岸良二 「佐倉市吉見台遺跡調査報告Ⅱ」 1983 佐倉市遺跡調査会
35. 佐谷通保 「穴穴住居の型式学的研究—縄文時代後・晩期の諸問題—」『奈和』第23号 1985
36. 杉原莊介・大塚初直他 「千葉県天神前遺跡における晩期縄文式土器」『鞍台史学』第15号 1964
- 杉原莊介・大塚初直 「千葉県天神前における弥生時代中期の墓址群」『明治大学文学部研究報告 考古学』第4回 1974
37. 青木幸一他 「人崎台遺跡発掘調査概報」 1984 日本考古学研究所
38. 佐倉市教育委員会 「岩宿塚谷津・太田宿」 1983
39. 清水潤三・鈴木公雄 「井野長削溝端概要」 1974 佐倉市教育委員会
40. 千葉県文化財センター 「千葉県埋蔵文化財分布地図(1)東葛飾・印旛地区」 1985
41. 梁川宏編 「印旛・千葉・印旛手賀沼周辺埋蔵文化財調査」 1961
- 高橋 澄他 「金塊台貝冢の再検討」『船橋考古』第4・5号 1975

(追記)

脱稿後、石川口出志氏により子和清水遺跡・房地遺跡の資料を実見して頂き、子和清水遺跡から野沢I式に並行する筒形土器が、房地遺跡から御代田I式に並行する深鉢形土器が出土しているとの指摘を受け、「千葉市大宮町東五郎遺跡発掘調査報告書」(対島郁夫他 1977)に晩期資料の掲載があるとの御教示を得た。報文第6図の下田台遺跡出土資料中の26~34と思われ、26の沈線文を作り刻突文が荒海式土器で、29~31はこれに作る粗製土器の可能性があるが資料未見のため地名表のみに記述した。

また! 四街道市池花南遺跡調査概要(千葉県文化財センター職員研修会資料 1986)に接した。それによれば丁字和清水遺跡に並行かやや古い浮線網状文が出土している。須和田式土器も出土しているものの荒海式土器は少ないという。晩期終末の遺跡が甲湖間に占地変化を行うことは印旛沼周辺でも指摘されている。(喜田圭介 「利根川下流域および印旛沼周辺における縄文時代晩期後半の様相」『研究紀要1』印旛郡市文化財センター 1986)。

千葉市内出土の浮線網状土器の変遷は和田前遺跡→房地遺跡→子和清水遺跡とたどれる。いずれにしても全県規模の資料集めが望まれる。